

要 旨

中国における観光産業の新段階と課題

馬 琳 娜

観光産業の最も重要とされている役割は、国と国、人と人の間の観光往来が盛んになることによって、国民同士間の相互理解と友好親善関係が増進され、世界平和の樹立に貢献するということである。それはまた、観光は平和的産業であるといわれる。国際観光は観光を目的とする人々の国際間の移動であり、そして観光目的で国際間の移動をする人々が国際観光客とよばれる。一般的には、観光目的以外の国際旅行者も観光客とよぶことが多い。ちなみに、中国における国際観光客の定義は、「我国に参観・訪問・旅行・親族や友人訪問・休養・視察・会議参加などで来たり、経済・科学技術・文化・教育・宗教などの活動に従事するため来た外国人・華僑・香港マカオ同胞と台湾同胞」となっている。観光・観光客について、このような定義され、本論文は国際観光における、中国観光産業の問題点と課題に研究を行う。

本論文の研究動機とは、中国は著しい経済成長を果たしている。国民の生活水準も上昇し、休日を有効に利用したい人が増えている。中国で改革政策が実施されて以来、中国の国民のほとんどは「小康社会」の生活水準に達し、衣食住の問題は解決された。それに伴い、さらに物質的な豊かさを追求する人が多くなることに加えて、精神的なゆとりも重視され、なかでも観光旅行が中国人の余暇生活の中で強く要求されるようになってきた。一方、観光産業は、現在多くの国にとって重要な産業となり、他国の文化や社会を理解できる機会を提供し、国際社会の相互理解に大きく貢献することもできる。21世紀に入り、観光産業はますます成長が見込まれる産業となっている。中国観光産業は驚くスピードで発展し、世界観光機関（UNWTO）の統計によれば、中国の国際観光収入は、「改革开放政策」開始の1978年に世界41位だったが、2008年には4080億ドルに増え、世界第5位になった。国際観光支出も3620億ドルと第5位となった。一泊以上の訪中観光客数は4080万人（日帰りも含めれば1億人）で世界第4位に躍進している。世界観光機関（UNWTO）の予測によれば2020年には、中国は年間約2億人の外国人観光客を入れる世界最大のインバウンド国になり、同時に約1.5億人の中国観光客を送り出す世界4番目のアウトバウンド国になるとされる。世界一の「観光大国」になるだろう。本論文は中国における観光産業の歴史から現状、問題点について明らかにしたい。

第一章、中国観光産業の新段階について、新しく時期区分をした。1949年中国成立後、中国観光産業を創業開始、約30年を経ち1977年から本格的に発展時期に入った。当時、中国の観光産業は国内を中心として展開させた。その後政治閉鎖・ビザ等の問題を緩和により、2000年から本格的に国際観光を展開させた。このように今後さらに中国における観光産業は発展が見込まれ、中国経済に占める重要度も急速に増加すると思う。本論文は中国観光産業の発展について、関連文献によるサーベイ調査の上、『中国旅遊統計年鑑』と『中国観光業詳説』に基づく、二時期五段階にわけ述べたいと考えている。このような時期区分は、中国観光産業の歴史区分、政策管制に関し、もっとも分かりやすく理解できると思う。すなわち、中国成立から2000年までの中国観光産業の発展時期、①創始段階1949年～1957年、②開拓段階1958年～1965年、③停滞段階1966年～1976年、④発展段階1977年～2000年。そして、21世

紀から中国観光産業の新発展時期、⑤兩昇一降段階 2001 年～2010 年。

第二章、中国観光産業の現状について、データを収集し系統的にまとめた。新中国成立後、中国の観光政策は 80 年代、90 年代と新世紀時代に分けてまとめた。また休暇、ビザ等関連制度についても述べた。1956 年～2010 年まで中国観光産業の実績状況について、インバウンド旅行、アウトバウンド旅行、観光収入等に分けて、それぞれの図表を作成した。

第三章、先行研究 1 には現在中国の観光産業は「兩昇一降」という状態に落ちることがわかった。インバウンド旅行の停滞は外貨収入も影響を及ぼす。UNWTO と中国国家旅遊局というように、中国は 2020 年までに世界一の「観光大国」になれるであろうか。中国観光産業は安定した外需に支えられ、一方で国内経済の発展による内需におされて、早いペースでの発展を実現してきた。しかし、現時点で見れば、2020 年までの世界一の観光大国という目標は達成困難となっている。先行研究 2、丁氏の論文により、中国の観光産業は存在する大きな問題とはサービス問題であることがわかった。それにより、仮説①観光サービス低下の原因は従業員教育が十分ではない。仮説②観光サービス低下の原因は従業員の給料が十分足りてない。(同世代違う産業と比べ)

結論を求めるため、中国北京市におけるフィールドワーク調査を行った。調査地：北京。調査対象者：現役従業員（旅行会社・ホテル）。調査方法：アンケート（ヒアリング）。調査結果は、第三章第二節のとおりである。中国観光産業におけるサービスが十分ではないことに関し、二つの仮説をしめした。今回の調査結果によれば、仮説 1 はみとめられない。仮説 2 は成立したということである。

第四章、今後の課題について、本論文は中国観光産業における観光サービスの問題を研究したが、今後中国の観光産業はますます拡大しつつ、生じた問題も増えてくる。このような課題を考えている。①旅行会社の問題、外資企業の参入による利点と弊点。②ソフト面インフラ整備の展開について、今後 WEB 宣伝手法の利用。その他、また様々な問題が存在している。たとえば政治問題が観光業にただちに影響する。しかし、日中そして韓国を加えた三カ国の観光旅行者数は一番多くて、これからもますます拡大していくはずだ。そのためには、良好な国家間の関係が必要となるだろう。また具体的な旅行内容では、粗悪品の買い物ツアーの問題がある。そもそも買い物目的のツアーは需要が少ないこともあって、この手の旅行はやがて頭打ちになるだろう。一番大切なのは従業員の教養問題だと思う。「ヒトの教養」が高くなるほど、より良いサービスを提供することができると思う。中国の観光産業には、単にハード面での整備、広報といったこと以外に、ソフトの面での課題が存在している。